

秦野の雨水排除

令和3年8月
Vol. 5

ハダノ
上下水道物語

地表に降り注いだ雨は、家屋に設置されている雨どいや雨水管を通して、川へと放流したり、浸透ますなどを使って、地下に浸透させています。近年では、豪雨の増加に加えて、都市化の進展に伴う雨水の浸透能力の低下により、短時間に多量の雨水が流出する傾向があり、市民の大切な生命、財産を脅かしています。大雨などによる浸水被害を防ぐために、雨水管きよを整備して、雨水浸水対策に取り組んでいます。



下水道マスコット
キャラクター
スイスイ



雨水施設の整備

雨水を流す施設は、市内各所に張り巡らされています。

その形状は、管路形式のものから道路側溝のものなどがあり、雨水がこれらの施設を通して川などに放流されることにより、宅地や道路などが浸水する被害を軽減しています。

- 管路の総延長は57kmに及び、最も太いもので、直径3mあります。



上下水道局では、浸水被害が予想される地区の施設整備を重点的に行っています。



雨水施設の整備の様子

調整池



立野台南調整池

調整池とは、豪雨により河川の水があふれないように、河川の水量を一定のレベルでコントロールし、一時的に雨水を溜めておく池のことです。

一定規模以上の開発を行う際に、事業者の協力を得て設置をしていただいております、民間との共同で雨水対策を実施しています。

大根・鶴巻地区の浸水対策

上下水道局では、古くから浸水被害に悩まされてきた大根・鶴巻地区を、平成25年度に重点地区と位置付けて、浸水対策に取り組んできました。

令和元年度には、時間雨量50mmに対応できる重要な幹線の整備が完了しました。このことにより、排出される雨水が円滑に大根川ポンプ場に流れ込み、計画どおりに機能が発揮されることで、浸水被害の軽減が図られるものです。

しかし、近年は、局地的な集中豪雨の発生や勢力が強い台風の上陸が増加していることから、引き続き、雨水対策を進めていく必要があります。



平成26年10月に秦野市を襲った台風18号による鶴巻地区の浸水被害の様子

鶴巻地区で雨水施設の整備をする様子

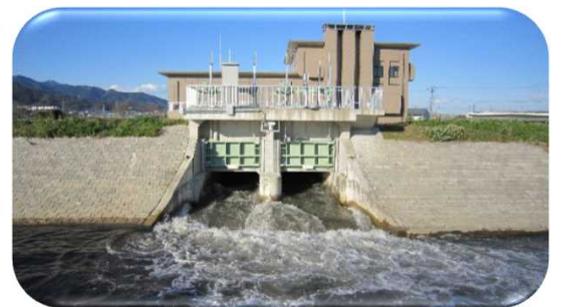


大根川ポンプ場

大根川ポンプ場は、鶴巻地区の雨水を排除するために、平成19年度から24年度にかけて整備を進めてきた施設です。

雨水を集めて、ポンプを使用し川へ流すことで、建物や道路の浸水被害を防いでいます。

●1分間で約900m³（小学校のプール約3杯分）の水を排水する能力があります。



大根川ポンプ場(放水時)

雨水の排除も
下水道の大切な
役割です！

